



# 第51期 株主通信

平成23年4月1日から平成24年3月31日

# TAKAMIZ

**高松機械工業株式会社**

【証券コード6155】



# 株主の皆様へ



## トップに訊く—The President Talks

代表取締役社長

高松 喜与志

株主の皆様には、平素より格別のご支援、ご鞭撻を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、昨年7月に設立50年を迎えることができました。これもひとえに多くの皆様に当社をご支援していただいた賜物と感謝の念に堪えません。これからも末永く皆様にご愛顧いただける企業であり続けてまいります。

さて、第51期の日本経済を振り返りますと、未曾有の大災害であった東日本大震災の影響を大きく受けた一年であったと感じます。震災によって企業の生産活動は大きく低下し、その後回復に向かったものの、福島原発事故のために電力不足問題に直面しました。為替相場を見ましても、円は平成23年10月に戦後最高値となる75円32銭を記録するなど、いまだ円高状態にあります。また、欧州債務問題や原油価格上昇などから海外景気が減速に転じる恐れもあり、企業は厳しい環境にさらされてきました。

このように先行きへの不安要素が多い状態で推移したことで、国内景気は持ち直しつつも、その勢いは緩やかなものにとどまりました。

一方、工作機械業界では回復傾向が継続し、順調に推移してきました。特に外需がけん引し、中国では金融引き締め政策の影響を受けたものの高水準の需要が続きました。タイでは洪水被害からの復旧需要が発生

し、アメリカでは自動車や航空機向けの需要が回復してきました。平成23年度業界受注総額は1兆3,111億円(前年同期比17.7%増)と2年連続で1兆円を超え、外需はその約7割を占めました。

このような状況の中で当社グループは、外需拡大に向けた戦略を推進し、特にタイや中国等のアジアに注力することで受注・売上を増やし、第51期の工作機械外需比率は前期を約10%上回る41.5%となりました。業績面も、自動車関連メーカーが設備投資を進めてきたことで改善し、また、より多くの需要に対応するために増産体制の構築を進めてきました。

先行きにつきましては、日本経済には不透明感がありますが、工作機械業界は外需を中心に堅調な推移を続け、市場のグローバル化が進む中で工作機械の需要は今後も更に拡大するものと見込まれます。当社グループでは、その日本・欧米・アジアに広がって増加する需要を、当社グループ内の連携を更に深めることで取り込んでいけるものと考えております。

これからも置かれている環境に対応しながら企業規模の拡大と企業価値の向上に努めていく所存でありますので、今後もご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

Q.

## 第51期の結果について 教えてください。

A.

第51期の業績は、工作機械受注高115億21百万円(前年同期比13.5%増)、工作機械受注残高44億31百万円(同10.3%増)、売上高144億22百万円(同31.7%増)、営業利益9億88百万円(同1,087.9%増)、経常利益10億86百万円(同722.6%増)、当期純利益6億35百万円(同90.1%増)と大幅に増やすことができました。

工作機械事業におきましては、業界の堅調な需要増加に呼応して市場シェア拡大をはかってきました。けん引役であった外需の中でも、特に需要が高いタイ市場で積極的な営業活動を推進してきたほか、洪水後には被災したユーザへのサービス・メンテナンスや復旧需要対応製品の生産など、早急な対応を行ってきました。

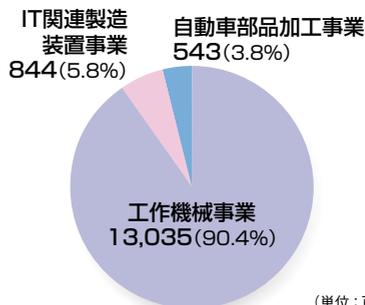
中国市場も日系企業の進出などで需要が高まっていることから、中国全土に対応するための新規ディーラ開拓とTAKAMAZブランドの市場浸透を推進し、販売力の強化をはかってきました。

需要が回復してきている欧米市場では、積極的な販促活動と販路拡大に努め、自動車業界からの需要が回復してきていた国内市場では、プライベート・ショー開催や展示会出展によって需要を取り込んできました。

IT関連製造装置事業や自動車部品加

工事業では、安定的に高い品質の製品を生産・納品してきたとともに、売上高拡大に向けて新たな受注を獲得するための営業活動を推進してきました。

## ■セグメント別売上高構成比



Q.

## 第52期の見通しについて お聞かせ下さい。

A.

日本経済の足元は緩やかに持ち直してきていますが、東日本大震災の影響による電力不足問題が依然として収束に向かわない中で、円高、原油高、欧州債務問題など景気不振リスクも存在し、その先行きは非常に不透明であります。また、アジア市場が成長を続け、今後とも成長を見込まれていることから、国内企業の海外進出が積極化し、国内産業の空洞化が進行していく恐れがあります。

工作機械業界でも同様に、多くの懸念事項から先行きの不透明感が強く、日本工作機械工業会の平成24年暦年業界受注見通しは1兆2,000億円と前年実績をやや下回っておりますが、アジアを中心とした海外の需要が今後も堅調に伸びてい

くものと見込まれています。

このように先行きは不透明なものの足元の状況が悪くないことから、当社グループの第52期は、売上高167億82百万円、営業利益13億4百万円、経常利益14億27百万円、当期純利益9億52百万円の増収増益を見込んでいます。

## Q. 第52期の取り組み内容について教えてください。

A. 工作機械業界では、外需比率が7割弱にまで達し、内需を大きく上回っております。この傾向は今後も継続すると見込まれますので、需要を取り込んでいく上で外需への対応が非常に重要であります。

そこで当社グループでは、海外対応力の強化に注力し、特にアジアを強化していきます。まず中国では、当社グループ製品を取り扱う新規ディーラの開拓を進めることなどで販促活動を強化し、TAKAMAZブランドの浸透をはかっていきます。タイでは、洪水被害による復旧需要は落ち着きを見せているものの、依然として高い需要が存在していることから、積極的な提案型営業を推進し、需要の確保に努めます。

外需よりも勢いが弱いながらも、国内での設備投資案件も、東日本大震災からの復興や自動車業界の回復から少しずつ増えてきています。更に、まだまだ潜在的なニーズが多く存在しているため、需要の

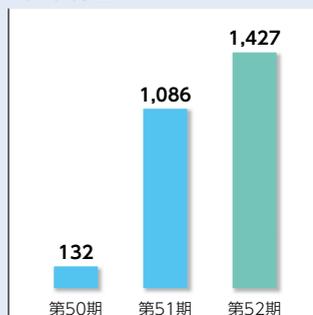
## ■第52期の連結業績見込み

(単位:百万円)

### ●売上高



### ●経常利益



### ●当期純利益



掘り起こしに努めるとともに、ユーザごとに適した仕様の製品群を提供していくことで、国内市場の需要確保と拡大をはかっていきます。

また、生産増強を実現するため、本社工場の増築を行うことで組立スペースを拡大させ、あわせて生産管理システムの見直しをはかっていくとともに、サプライチェーンの再構築、人材の教育・育成、外注先の効果的活用などを実施し、より多くの製品・ユニットを効率よく生産していくためのものづくりを行っていきます。

IT関連製造装置事業では、継続的な営業活動の実施により安定受注の確保をはかるとともに、新規分野からの受注を得るための営業活動を展開し、新たな受注を獲得することで、売上高を増加させていきます。また、業界の急激な変化にも対応できる生産管理を行っていくとともに、リードタイム短縮など原価低減活動を推進していきます。

自動車部品加工事業では、サイクルタイム短縮によって原価低減を推進するとともに、良い製品を安定して提供し続けることで、顧客からの信頼度を向上させていきます。また、営業活動を更に進めて引合案件の受注獲得をはかり、事業規模の拡大につなげていきます。

また現在、基幹システムの更新・強化を進めています。原価管理、進捗管理、販売管理をこれまでよりも更に効率化・強化し、強固な企業基盤の構築をはかっていきます。

## 海外進出の状況と課題について教えてください。

 当社グループでは、連結子会社がアメリカ、ドイツ、タイ、中国にあり、合弁子会社が中国にあります。海外での需要を取り込んでいくためには、現地でのサービス・メンテナンス体制が重要でありますので、市場が十分に拡大しており、自動車産業が盛んである国を中心に展開してきました。

今後におきましても、子会社がある国での対応力を強化していただくだけではなく、まだ対応が弱い国での強化をはかっていくことが、これからのTAKAMAZの成長のために必須な戦略であります。

すでにグループが展開している中でも中国にある杭州友嘉高松機械有限公司では、現地で工作機械を製造しておりますが、高まり続けている中国市場の需要に対応するために、これまでよりも約4倍の生産を行うことができる新工場を建築中であり、今年中の完成を見込んでいます。またあわせて従業員の増員や教育も進め、生産能力の拡大をはかっています。

更に中国には販売子会社である喜志高松貿易（杭州）有限公司もあります。現在は杭州本社のみで活動していますが、数多くの日系自動車関連企業が集中する広州で駐在所を開設することで営業力をより高め、また中国の件費高騰に対応して当社が得意とする自動化・省人化システム

を提案していくことで、市場シェアを拡大していきます。

中国以外にも、アジアの中ではインドネシアでの需要拡大が見込まれています。インドネシアでは、自動車やオートバイの需要が高いことから日系の自動車関連企業が多く進出しており、工作機械の現地調達やサービス・メンテナンスの増加が予想されます。当社では現在、TAKAMATSU MACHINERY (THAILAND) CO., LTD.でインドネシアも対応していますが、お客様へ更に迅速な提案やサービス・メンテナンスを提供するために、インドネシアに新たな拠点の設置を検討しています。

その他でもインドやベトナムなど、経済成長が見込まれ、需要の高まりが期待できる国々もありますので、今後の需要拡大とその取り込みを考え、市場への進出強化を検討をしていきます。

## Q. 株主の皆様へメッセージをお願いします。

A. 当社グループの主力事業である工作機械事業では、特に新興国の成長を軸として、工作機械の必要性が高まってくると見込まれます。また、企業としてこれからも成長を続けていくために、IT関連製造装置事業や自動車部品加工事業の拡大をはかっていくとともに、新たな事業展開も視野に入れて企業活動を

推進していきます。

株主の皆様への利益還元に関しまして、当社グループが今後も企業価値を高めていくには、恒常的な設備投資等に資金が必要になりますが、適切な還元を行うために企業体質の強化をはかっていきます。

第52期の見通しは、リーマンショック前の水準となる売上高の達成を計画していますが、原材料価格の高騰や人件費などの増加による固定費増加により、利益の面ではまだ当時に及ばない見通しです。しかし、第51期よりも業績が改善することを見込んでいますので、中間期に5円(第51期は3円)、期末に7円(同5円)の年間配当12円(同8円)とし、増配を予定しています。

今後も安定的な配当の継続と配当性向の向上に努めてまいりますので、皆様の温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。



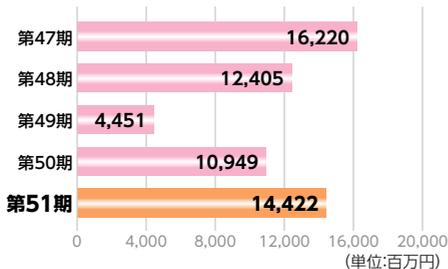
# 業績の推移

## 連結業績ハイライト

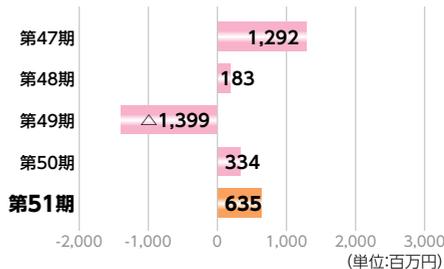
科目	第47期 (平成19年度)	第48期 (平成20年度)	第49期 (平成21年度)	第50期 (平成22年度)	第51期 (平成23年度)
売上高 (百万円)	16,220	12,405	4,451	10,949	14,422
営業利益又は営業損失(△) (百万円)	2,109	382	△ 1,737	83	988
経常利益又は経常損失(△) (百万円)	2,193	434	△ 1,495	132	1,086
当期純利益又は当期純損失(△) (百万円)	1,292	183	△ 1,399	334	635
純資産額 (百万円)	9,349	9,234	7,849	8,129	8,739
総資産額 (百万円)	16,184	12,670	11,339	14,343	15,791
1株当たり当期純利益 又は当期純損失(△) (円)	119.04	17.02	△ 130.56	31.20	59.16
1株当たり純資産額 (円)	858.91	857.72	727.22	752.50	799.32

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

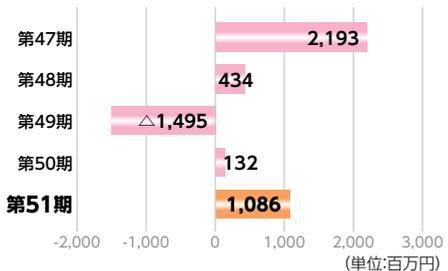
### ●売上高



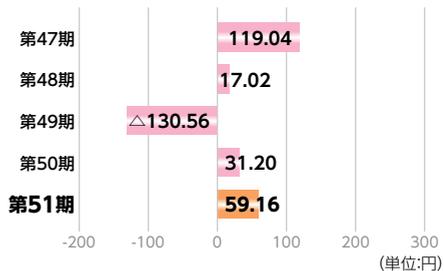
### ●当期純利益



### ●経常利益



### ●1株当たり当期純利益



# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (平成23年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成24年3月31日現在)	科目	前連結会計年度 (平成23年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成24年3月31日現在)
<b>(資産の部)</b>			<b>(負債の部)</b>		
<b>流動資産</b>	<b>8,721</b>	<b>10,704</b>	<b>流動負債</b>	<b>4,591</b>	<b>5,480</b>
現金及び預金	2,418	2,860	支払手形及び買掛金	3,033	4,080
受取手形及び売掛金	4,299	5,352	短期借入金	1,129	829
商品及び製品	244	410	リース債務	-	11
仕掛品	670	874	未払法人税等	33	41
原材料及び貯蔵品	700	879	賞与引当金	128	162
繰延税金資産	355	262	役員賞与引当金	20	23
その他	36	69	製品保証引当金	23	36
貸倒引当金	△ 4	△ 5	その他	222	295
<b>固定資産</b>	<b>5,621</b>	<b>5,086</b>	<b>固定負債</b>	<b>1,622</b>	<b>1,571</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>4,415</b>	<b>4,110</b>	長期借入金	867	767
建物及び構築物	1,029	949	リース債務	-	42
機械装置及び運搬具	946	725	退職給付引当金	482	488
工具、器具及び備品	107	102	役員退職慰労引当金	253	272
土地	2,332	2,326	その他	18	0
リース資産	-	4	<b>負債合計</b>	<b>6,214</b>	<b>7,052</b>
建設仮勘定	-	2	<b>(純資産の部)</b>		
<b>無形固定資産</b>	<b>31</b>	<b>68</b>	<b>株主資本</b>	<b>8,065</b>	<b>8,687</b>
のれん	29	17	資本金	1,835	1,835
リース資産	-	48	資本剰余金	1,833	1,826
電話加入権	1	1	利益剰余金	4,518	5,089
<b>投資その他の資産</b>	<b>1,174</b>	<b>907</b>	自己株式	△ 121	△ 64
投資有価証券	620	648	<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>△ 0</b>	<b>△ 6</b>
保険積立金	138	149	その他有価証券評価差額金	37	44
繰延税金資産	370	66	為替換算調整勘定	△ 37	△ 50
その他	46	43	<b>新株予約権</b>	<b>64</b>	<b>58</b>
貸倒引当金	△ 0	△ 0	<b>少数株主持分</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>資産合計</b>	<b>14,343</b>	<b>15,791</b>	<b>純資産合計</b>	<b>8,129</b>	<b>8,739</b>
			<b>負債純資産合計</b>	<b>14,343</b>	<b>15,791</b>

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
売上高	10,949	14,422
売上原価	8,644	11,044
売上総利益	2,305	3,378
販売費及び一般管理費	2,222	2,389
営業利益	83	988
営業外収益	66	121
営業外費用	17	24
経常利益	132	1,086
特別利益	0	3
特別損失	1	3
税金等調整前当期純利益	131	1,086
法人税、住民税及び事業税	30	54
法人税等調整額	△ 234	395
少数株主損益調整前当期純利益	334	635
少数株主利益	0	0
当期純利益	334	635

## 連結包括利益計算書

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	334	635
その他の包括利益	△ 42	△ 6
その他有価証券評価差額金	△ 18	7
為替換算調整勘定	△ 11	△ 12
持分法適用会社に対する持分相当額	△ 12	△ 1
包括利益	292	629
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	292	629
少数株主に係る包括利益	0	0

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 432	958
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 266	△ 100
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,045	△ 425
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 11	△ 9
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	335	423
現金及び現金同等物の期首残高	895	1,230
現金及び現金同等物の期末残高	1,230	1,654

(注) 各計算書において、記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

# トピックス

## 展示会

### SIMTOS2012(韓国) (平成24年4月17日～4月22日開催)

SIMTOS2012(ソウル国際工作機械見本市)が韓国・ソウル近郊で行われ、当社はTAKAMAZのコーポレートカラーであるオレンジを基調としたブースで「XL-100」、「XW-30」、「XW-80」の3機種を出展しました。会場は現地メーカーの方々を筆頭に大勢の人でにぎわい、活発な商談が行われ、当社でもたくさんの引合を得ることができました。



### MEX金沢2012(平成24年5月17日～5月19日開催)

地元石川県で毎年開催されている北陸地区最大の機械工業見本市であるMEX金沢に出展しました。

MEX金沢は今年で記念すべき開催50周年を迎え、会場は55,804人も多くの来場者でにぎわいました。当社は初のお披露目となる新機種「XL-150」、本格的な複合加工機「XB-1000」、コンパクトタイプの複合加工機「XY-120PLUS」など全9機種を出展し、絶え間ない商談の中多くの受注をいただきました。

### 全国ディーラ会議(平成24年5月14日、15日開催)

本社工場にて毎年5月に行っている全国ディーラ会議を今年も開催しました。ディーラ23社30名の方々が本社工場を訪れ、新機種「XL-150」などを見ていただき、製品の評価をはじめ、たくさんの貴重なご意見をいただくことができました。ディーラの生の声を活かした製品開発につながるヒントを得る良い機会になりました。

## 出展製品 **NEW**



XL-150



XB-1000



XY-120PLUS

## 表彰式

### いしかわモノづくり産業遺産認定(平成23年10月27日)

石川県の基幹産業である機械産業や繊維産業などの発展に貢献した機械を貴重な財産として認定する【いしかわモノづくり産業遺産】に、当社の「T-650」、「TCC-8」、「メリター」の3製品が認定され、石川県より認定証が交付されました。都道府県が機械分野に限定して「遺産」を認定する制度は全国で初めてで、県内からは14社27製品が認定されました。その中に見事選ばれたことを誇りにし、今後の開発にますます力を入れていきます。



### 【日本機械工業連合会会長賞】受賞(平成24年2月8日)

日本機械工業連合会で昭和55年度から毎年実施されている「優秀省エネルギー機器表彰」が今年も行われ、当社の「XC-100」と「XL-100」が【日本機械工業連合会会長賞】を受賞しました。当表彰では、優秀な省エネルギー機器を開発・実用化し、エネルギーの効率化に貢献していると認められる企業を表彰しており、今回は全国で18社が選ばれました。この名誉ある賞を受賞できたことを喜び、今後も社会に貢献できる製品の開発に努めていきます。

#### 評価のポイント

- 従来機に比べて電力使用量を1割削減
- 機内照明にLEDライトを採用

### 【品質賞】受賞(平成24年5月18日)

自動車部品加工事業において当社の品質面が高く評価され、平成23年度の優秀仕入先として(株)デンソーより【品質賞】をいただきました。(株)デンソーからは平成19年にも工作機械事業で【技術開発賞】をいただいております。今回で2度目の受賞となります。今後もより良い品質をお客様にお届けできるよう、更なる改善に取り組んでいきます。

## 受賞製品

### いしかわモノづくり産業遺産



T-650

メリター

### 日本機械工業連合会会長賞



XC-100

XL-100

# 職場紹介 =海外編= (タカマツマシナリーUSA)



タカマツマシナリーUSA(以下、TMUといいます)は、アメリカ・シカゴのオヘア国際空港から車で15分ほどのところにあるエルクグローブビレッジ("野生の鹿の村"という意味)という町にあります。エルクグローブビレッジは日本でいうと北海道のような気候をしており、冬場は耐え難いほどの極寒期が続きます。真冬の寒さが少しずつ落ち着き、6月頃になると緑でいっぱいの環境に変化する、自然あふれる地域です。また、その名のとおおり野生のオオシカが見られる公園があることも魅力の一つです。TMUは、このような自然環境の中に事務所を置き、現地に駐在している当社の社員1名と、現地で採用した社員5名の計6名で、日々仕事に取り組んでいます。



TMUの主な業務は、現地ユーザや現地工場がある日系ユーザを対象に、製品の受注から修理などのアフターサービスまで全てのフォローアップを行うことです。アメリカ、カナダ、メキシコを活動エリアとし、新規ユーザの開拓なども行っています。

また、事務所から車で6時間ほど離れたオハイオ州南西部にあるシンシナティ市にも小規模のショールームを設け、TAKAMAZブランドの製品を展示して、現地での製品PRを行っています。

TMUの第一の目標は、「TAKAMAZブランドの知名度を上げること」。日本では一定の評価をいただいているTAKAMAZブランドですが、海外においては、まだまだ知名度が高くありません。

このTAKAMAZブランドを北米全域に広めるため、お客様にご満足いただけるサービスを提供できるよう、TMUメンバーは今日も力いっぱい飛び回っています。

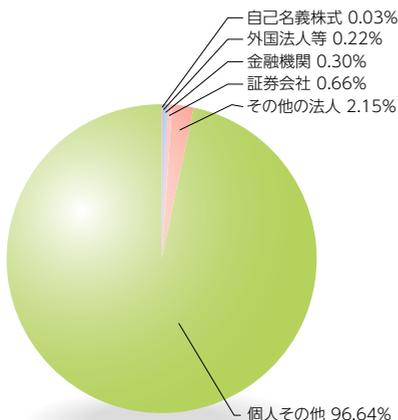


# 株式の状況 (平成24年3月31日現在)

## 株式の状況

- ①発行可能株式総数……………30,000,000 株
- ②発行済株式総数……………11,020,000 株
- ③1単元の株式数……………100 株
- ④株主数……………3,203 名

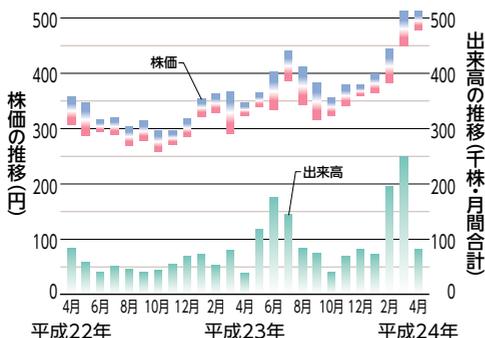
## 所有者別分布状況



## 大株主

株主名	当社への出資状況	
	所有株式数(千株)	持株比率(%)
株式会社タカマツ	810	7.35
高松機械工業取引先持株会	796	7.22
日本生命保険相互会社	480	4.36
北国総合リース株式会社	433	3.93
高松機械工業社員持株会	425	3.86
株式会社北國銀行	408	3.70
三井住友海上火災保険株式会社	408	3.70
株式会社朝日電機製作所	361	3.28
明治安田生命保険相互会社	360	3.27
高松明毅	330	3.00

## 株価インフォメーション



## 1株当たり配当額



# 会社の概要 (平成24年3月31日現在)

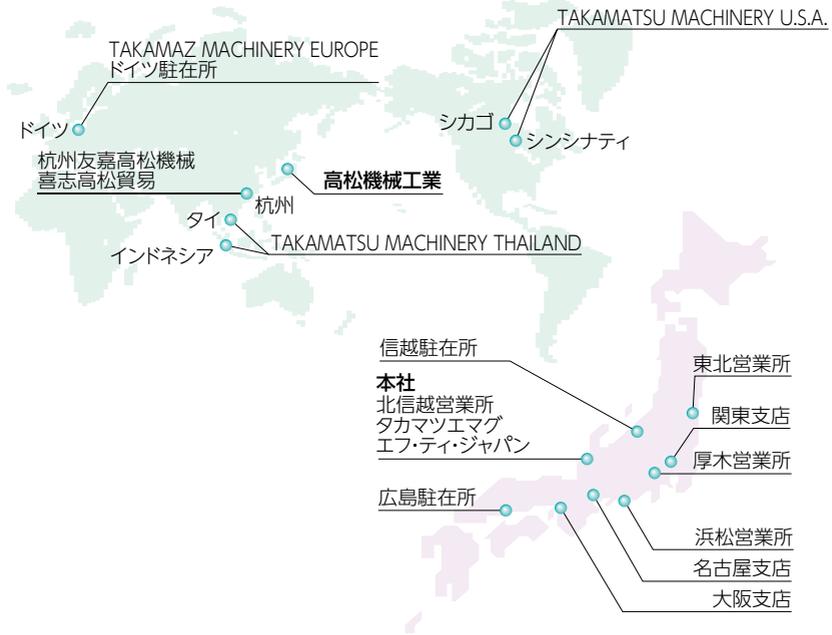
## 会社概要

商号	高松機械工業株式会社
設立	昭和36年7月
資本金	18億3,539万円
本社	石川県白山市旭丘1丁目8番地
従業員数	407名
子会社および関連会社	TAKAMATSU MACHINERY U.S.A., INC. TAKAMATSU MACHINERY (THAILAND) CO., LTD. TAKAMAZ MACHINERY EUROPE GmbH 喜志高松貿易(杭州)有限公司 株式会社タカマツエマグ 杭州友嘉高松機械有限公司 株式会社エフ・ティ・ジャパン
ホームページアドレス	<a href="http://www.takamaz.co.jp">http://www.takamaz.co.jp</a>

## 役員 (平成24年6月26日現在)

代表取締役社長	高松 喜与志
常務取締役(生産本部長)	前田 充夫
常務取締役(営業本部長)	中西 与平
常務取締役(管理本部長)	溝口 清
取締役(生産本部副本部長兼製造部長)	宮川 隆
取締役(営業本部海外営業部長)	徳野 穰
取締役(生産本部生産管理部長)	中川 進
取締役(管理本部総務人事部長)	高松 宗一郎
取締役(社外)	中西 祐一
常勤監査役	池上 佳信
監査役(社外)	鍛冶 敏弘
監査役(社外)	杖村 修司

## ネットワークとサービス体制 (平成24年6月26日現在)



本社工場(工作機械事業)



第2工場(コレットチャック生産)



第3工場(自動車部品加工)



開発センター(IT関連製造装置)

## 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 6月中  
株主確定基準日 (1) 定時株主総会 3月31日  
(2) 期末配当金 3月31日  
(3) 中間配当金 9月30日  
(4) その他必要ある時 あらかじめ公告して定めた日

### 【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人 および 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社  
株主名簿管理人事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(郵便物送付先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(電話照会先) ☎0120-176-417  
(インターネットホームページURL) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

### 【特別口座について】

株券電子化前に「はふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

公告の方法 当社ホームページに掲載 <http://www.takamaz.co.jp>  
上場証券取引所 東京証券取引所市場第二部  
お問い合わせ先 管理本部 企画経理部  
TEL 076-274-1411〈直通〉 FAX 076-274-1418

## ホームページについて

より多くの皆様に当社をご理解いただくために、会社概要をはじめ、決算情報等をホームページに掲載しております。



<http://www.takamaz.co.jp>



**TAKAMAZ**  
高松機械工業株式会社

**r2100**  
**UD FONT**

このパンフレットは再生紙を使用しています。  
見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

